

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成 30 年 8 月 6 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所 属 部 局 化学研究所・物質創製化学研究系有機元素化学研究領域

職 名 教授

氏 名 時任 宣博

助成の種類	平成30年度 ・ 国際会議開催助成		
国際会議名	(和文)第15回無機環状化合物国際シンポジウム (英文)The 15th International Symposium on Inorganic Ring Systems (略称 IRIS-15)		
開催期間	平成30年6月24日 ～ 平成30年6月29日		
開催場所	京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ・きはだホール他		
参加者	総数 205名	内 訳 国内参加者 107名 国外参加者 98名 参加国 14カ国	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	事業に要した経費総額	12,062,100 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	ケイ素化学協会、徳山科学技術財団、京都文化交流コンベンションビューロー、京都大学化学研究所共同利用・共同研究拠点	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費交通費	1,674,987	734,792
	会場・会議費	2,337,210	0
	印刷製本費	1,230,797	265,208
	通信運搬費	22,024	0
	謝金	882,067	0
消耗品費	520,597	0	
その他(飲食費)	1,466,923	0	
レセプション・エクスカーション費	3,927,495	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 多大なるご支援を賜り、心より感謝しております。		

## 成果の概要／時任宣博

2018年6月24日(日)から29日(金)の期間、京都大学宇治キャンパス 宇治おうぼくプラザ(きはだホール、ハイブリッドスペース)および化学研究所総合研究実験1号棟にて、第15回無機環状化合物国際シンポジウム(The 15th International Symposium on Inorganic Ring Systems, IRIS-15)を開催した。また本国際会議は、化学研究所国際シンポジウム(Institute for Chemical Research International Symposium 2018, ICRIS2018)との合同開催とした。会議の運営は、第15回無機環状化合物国際シンポジウム組織委員会(国際委員12名、名誉国際委員5名、国内委員41名)を中心に、日本化学会、有機合成化学協会、近畿化学協会、ケイ素化学協会、国立大学共同利用・共同研究拠点「化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点」、および京都大学化学研究所の共催の下で行った。国内107名、国外98名、計205名(計14ヶ国)の参加者を得て、「無機環状化合物」を基軸とした最先端の研究について研究成果発表および討論を行った。

ケイ素・リン・硫黄などの高周期典型元素や各種遷移金属元素を環構成元素として含む「無機環状化合物」の化学は、医薬・農薬・高分子・エレクトロニクス等、多種多様な有機工業化学の対象化合物や合成触媒の基本骨格として重要であり、古くから活発に研究が行われてきた。さらに、近年の遷移金属触媒を活用した精密有機合成化学やクラスター化合物、有機・無機ハイブリッド化合物などの高機能性物質開発研究の発展は、本国際シンポジウムの主題である「無機環状化合物」を基軸とした研究対象とも密接に関連している。本国際シンポジウムでの討論を通して、「無機環状化合物」の化学の国際的研究を進展させると同時に、我が国の「典型元素化学」研究発展に繋げ、広く社会に成果を還元することを目的とした。

シンポジウム受け付けでは、プログラム(学内マップなどを含む)、講演プログラム、講演要旨ファイルを入れたUSBメモリ、ランチチケット(大学生協食堂で使用可、6/25~29分)、ネームカードケース、企業広告、日本化学会論文誌パンフレット(BCSJ誌およびCL誌)、ノート、ペン、観光地図(京都市、宇治市)、観光ガイドブック、外国人観光者向けフリーマガジン、おふき(京都限定 絹の眼鏡拭き)を詰めたカンファレンスバッグを配布した。

会議は、基調講演(Plenary Lecture, 各40分)5件、招待講演(Invited Lecture, 各30分)15件、Special Keynote Lecture(名誉国際組織委員 Robert West教授, 40分)、口頭発表(Oral Presentation, 各20分)51件、ポスター発表(Poster Presentation)82件で構成され、これらに加えて6月24日(日)にミキサ―、27日(水)午後にエクスカーション(宇治、京都観光)、28日(木)にIRIS国際組織委員会、バンケット(新都ホテル)を行った。基調講演は、Manfred Scheer教授(University of Regensburg、ドイツ)、Cameron Jones教授(Monash University、オーストラリア)、David Scheschkewitz教授(Saarland University、ドイツ)、Axel Schulz教授(Universität Rostock、ドイツ)、久新荘一郎教授(群馬大学)により行われた。また、厳正な審査を行い、評価の高かった学生による発表には、口頭

発表賞 2 件(BCSJ Award、Chemical Science Award 各 1 件)、ポスター発表賞 5 件(Chemistry Letters Young Award 2 件、Chemical Science Award 1 件、Dalton Transactions Award 2 件)を授与した。会期中、新規な無機環状化合物の合成・構造、無機環状化合物に関する理論化学、反応機構、無機環状化合物の特性を活かした合成化学、典型元素配位子を利用した新規な触媒反応、無機環状化合物を基盤とした新規機能性物質の開発などに関し、全ての講演・発表において活発な討議ができ、各国の国際組織委員および国内外の参加者から高い評価を受けた。本国際シンポジウムでの質疑討論を通して最先端の情報を参加者で共有でき、「無機環状化合物」の化学の国際的研究を進展させると同時に、我が国の「典型元素化学」研究発展に繋げ、広く社会に成果を還元する貴重な機会を提供することができた。今回の本国際シンポジウム開催は、欧州・北米以外ではインドに次いで二ヶ国目、我が国では初の開催ということで非常に意義深いものであった。国内外から多くの参加者を得て、「無機環状化合物」に関する高レベルの国際シンポジウムを成功させることができた。